

平成28年度 学校自己評価表（実施段階）

福岡県立八幡中央高等学校長 印
（全日制課程）

学校運営計画(4月)			評価(3月)		
学校運営方針	校訓である「自律」「敬愛」「創造」の精神に基づき、志高く、自律心と思いやりの心を持つ、心身ともに健康な生徒を育成する。			B	
昨年度の成果と課題	28年度 重点目標				
一昨年度から実施している講師招聘による講演会や大学との連携を更に充実させるとともに、特別進学クラスの設置、理系、文系の習熟度別クラス編成に引き続き取り組んだことにより、人間性豊かな志を高く持つ生徒の育成が少しずつ現実味を帯びてきた。生活指導上の問題も少なく、生徒は落ち着いて学校生活を送っている。しかしながら、入試においては昨年に続く芸術コースの定員割れ、普通科の倍率の低下など課題が多く、学校を挙げて学習指導、生徒指導に取り組み、対策が急がれるところである。本校は今年度創立100周年の節目を迎える年であり、生徒と教員、生徒同士、教員同士のコミュニケーションを深め、八幡中央高校を一つのチームとして機能させ、現状の改善を目指す。	1 志の育成	・依存せず、他人や環境のせいにならず、自分で自分の人生の舵を執る。より以上を目指し、人の役に立ち、謙虚さを持った、自立型人間を育成する。			
	2 学力の向上	・授業規律を確立し、「わかる授業」「できる授業」等、生徒が積極的に参加できる充実した授業の実現に向けて改善を図る。			
	3 基本的な生活習慣の確立	・積極的な生徒指導による教育実践を推進し、自己指導能力を育成する。			
	4 豊かな人間性の育成	・コミュニケーション能力の育成や他者を尊重し、思いやる心を育て、人間関係構築力の向上を目標とし、いじめのない学校づくりを目指す。			
	5 学校力の向上	・校務分掌に部課長制を導入することにより、学校運営を組織として機能させるとともに、生徒会、部活動の活性化を図り、学校行事や日々の活動を通して生徒の課題解決能力を育成する。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
1 キャリア教育に基づく「志の育成」	・3年間を見通した計画的な進路指導を実践する。 ・生徒の状況把握に努め、積極的な思考力、コミュニケーション能力を養わせる。な指導を行う。	・社会に貢献する人材に成長するための機会を積極的に設ける。	B	B	身につけさせる力を明確にして、共通理解に基づいた職員の指導ができるようマニュアルを作成する。また、ルーブリック評価表を作成して、生徒自身に振り返りをさせる。言語力を身につけさせるための方策を研究し、思考力とコミュニケーション能力を高められるプログラム開発を継続して行う。
		・自分の生き方や在り方について考えさせる企画を実施する。	A		
		・主体的に問題解決に取り組む機会を設ける。	B		
		・コミュニケーション能力を高めるためのプログラムを実施する。	A		
		・協同による活動性の高い授業づくりに取り組む。	B		
・様々な場面で自分の考えを言語化することで思考力を育成する。	B				
2 基礎・基本の徹底による「学力の向上」	・充実した授業、魅力ある授業を展開し、学習意欲の高揚と学力の向上を図る。 ・学習習慣を確立させ、家庭学習（予習・復習）の徹底を図る。	・授業始業時の「黙想・起立・礼」を徹底し、授業規律を確立する。	B	B	学校の根幹である「授業」の改善については、これまでも取組を進めてきた。今後も進路指導課と連携しながら、アクティブラーニングを取り入れた研究授業の実践を積み重ね、授業評価アンケートを有効に活用し、より質の高い授業へと改善をしていく。「観点別評価」については、数学科の「先行実施」を含めて制度作りを進めてきた。また、生徒部や学年と連携を図り、学習環境を整える。
		・授業評価アンケートなどを通して授業改善に努める。	A		
		・学び直しを行い、学力の基礎固めを行う。	A		
		・特進クラスや習熟度別授業を充実させ、効果的な運用を図る。	B		
		・出席率99%以上、遅刻者数は前年度比8割以下を目標とする。	B		
・学習時間調査やスケジュール帳等を用いて自己管理能力を身に付けさせる。	B				
・課題・実力・定期考査等に対する取組意識を向上させる。	B				
3 「基本的な生活習慣」の確立	・規範意識を醸成し、自己指導能力を育成する。 ・特別活動や学校行事を通して、共感的人間関係を構築する。	・挨拶励行・時間厳守・校則遵守を柱として生徒指導に取り組む。	B	B	生徒指導上の諸課題については、個々の事案に対して適切な対応がとれた反面、生徒自身に自ら考え自ら行動する自己指導能力を育成する課題については、継続的に取り組む必要がある。また、生徒会活動を活性化するため、リーダー養成が急務である。学校行事はもちろんのこと、生徒主体の学校運営が円滑に行えるよう機動力を高めていきたい。
		・指導目標に従い、登下校指導・昼休み巡視を徹底する。	A		
		・授業を中心に据えた積極的な生徒指導を推進する。	B		
		・行事の充実を図り、生徒一人一人に自己存在感を持たせる。	A		
		・生徒会執行部・事務局・専門委員会の活動を活性化させる。	B		
・部活動を充実させ、加入率80%以上の維持に努める。	A				
4 豊かな「人権感覚」の育成	・人権が尊重される学校づくりを推進する。	・一人一人が大切にされる学習活動づくりに取り組む。	B	B	アンケートの充実等を通じて学校全体でいじめの早期発見には一定の成果をあげることができたが、自己を大切にだけでなく他者も尊重し、異なる価値観をもつ者同士が認め合える関係の構築に向けての指導を行う。
		・互いの良さや価値観を認め合える人間関係づくりに取り組む。	B		
		・定期的なアンケート調査や日頃の生徒観察によっていじめの早期発見に努めるとともに、生徒の人権が最優先される雰囲気、環境づくりに取り組む。	A		
		・部課長制の校務組織を確立させ、サービスの効率化を目指す。	A		
5 学校組織力の向上	・教育力の向上に向け、学校組織の活性化を図る。	・職員研修の充実を図り、教員の資質を向上させる。	B	B	部課長制による業務の効率化についてはかなりの浸透をみせ、各々の自己業務の整理が進んでいるようである。教員のスキルアップへの意識はまだ十分とは言えず、研修の機会を増加させるなどの啓発が必要であると思われる。
		・職員の働きやすい職場環境を実現するため、ハード・ソフト両面からの積極的なアプローチに取り組む。	B		
		・ホームページのデザイン変更、および発信する内容を再検討する。	A		
6 学校内外への積極的情報発信	・中学校、保護者、地域、加えて在校生に向け、本校の教育活動を積極的に発信する。	・オープンスクールの内容充実を図り、中学生に広くアピールする。	A	A	学外への広報という点では、HP閲覧数が前年比40%増という数値が示すとおり、十分に活動できたと考える。さらに充実させるため、HPの内容刷新、校内広報の拡充、中学校での説明会の増加の3つを次年度への課題としたい。
		・学内掲示板を有効利用し、在校生にも情報発信を広く行う。	B		

